# 倉敷市歴史文化保存活用計画
（素案）

平成３０年２月
倉　敷　市

# 目　　次


１　倉敷市歴史文化保存活用計画の策定に当たって ..... 1

１－１　計画策定の目的 ..... 1
１－２　策定の体制及び経緯 ..... 3
１－３　計画の期間 ..... 4

２　関連文化財群の保存・活用に向けた基本的な考え方 ..... 5

２－１　関連文化財群の保存・活用にあたっての視点 ..... 5
２－２　関連文化財群ごとの保存・活用の方向性 ..... 6
（１）暮らしと文化を支える流通・交易 ..... 6
① 海と川を介した流通・交易　② 陸上交通による人や物資の往来
（２）魅力と活力を育む殖産の精神 ..... 9
③ 干拓と農業　④ 海・里・山の恵みを活かした殖産　⑤ 繊維産業の展開と継承
（３）地域の個性を反映した信仰 ..... 13
⑥ 信仰の聖地　⑦ 地域性を表す信仰と祭礼・行事
（４）要衝の地に刻まれた記憶 ..... 16
⑧ 勢力の狭間　⑨ 天下分け目の戦乱　⑩ まちの発展を支える水島臨海工業地帯
（５）文教・美観が織りなす豊かな暮らしと観光 ..... 20
⑪ 景勝を守り、育み、活かす心　⑫ 文教が息づくまち

３　関連文化財群の戦略的な保存・活用 ..... 23

３－１　構成文化財の着実な保存・活用と歴史文化保存活用区域における戦略的な保存・活用 ... 23
３－２　歴史文化保存活用区域の設定 ..... 24

４　保存活用計画 ..... 27

４－１　「繊維に育まれたまち」保存活用計画 ..... 27
（１）倉敷エリア ..... 27
（２）児島・下津井エリア ..... 36
（３）玉島エリア ..... 45
４－２　「古代吉備に関連する遺跡群」保存活用計画 ..... 54
（１）庄エリア ..... 54
（２）真備エリア ..... 64

# 1　倉敷市歴史文化保存活用計画の策定にあたって

## １－１　計画策定の目的

倉敷市では、市民、専門家、行政等の多様な主体が連携して、文化財とその周辺環境とが一体となった歴史文化の豊かな環境を守り、育み、活かす取り組みを市内全域において展開し、地域の魅力と活力の向上につなげていくことを目的として、平成 28 年（2016）12 月に、歴史文化を活かしたまちづくりのためのマスタープラン（道しるべ）となる『倉敷市歴史文化基本構想』を策定した。

『倉敷市歴史文化基本構想』では、歴史文化を活かしたまちづくりの目標として、「歴史文化を活かした地域の魅力と活力の向上」を掲げ、「方針１　歴史文化を守り、育み、活かすための基盤を整える」、「方針２　歴史文化を適切に守り、育む」、「方針３　歴史文化をまちづくりに効果的に活かす」の３つの方針を設定した。そして、それらの方針に基づく取り組みを相互に連携させながら推進することにより、地域（歴史文化）の魅力の向上を図り、それを原動力として「居住促進」、「産業振興」、「経済活動の活性化」「観光振興」の循環を創り出すことで、地域の活力の向上につなげていくこと、また、その活力をもとに、さらなる地域（歴史文化）の魅力の向上に向けた取り組みを推進する循環を作り出し、倉敷市における歴史文化を活かしたまちづくりを持続的に発展させていくことを目指すこととした。

そして、目標を実現するために、３つの方針のもとに、さらにそれらを具体化した８つの方針を設定した。基盤づくりに関する方針１では、「方針１－１　ひとづくり」、「方針１－２　仕組みづくり」、「方針１－３　体制づくり」の３つ、保存に関する方針２では、「方針２－１　文化財の掘り起こし」、「方針２－２　個々の文化財を守り、育む」、「方針２－３　文化財と周辺環境を一体的に守り、育む」の３つ、活用に関する方針３では、「方針３－１　個々の文化財を活かす」、「方針３－２　文化財と周辺環境を一体的に活かす」の２つである。

**これらの方針は、倉敷市の歴史文化や文化財の価値や魅力を守り、育み、活かすための基盤となる基本的な考え方であり、この方針に基づいて、倉敷市全域において、歴史文化を活かしたまちづくりの取り組みを着実に推進していくこととしている。**

一方で、方針２－３並びに方針３－２では、文化財と周辺環境を一体的に守り、育み、活かすための手法として、「関連文化財群」を設定し、そのまとまりを活かして効果的な取り組みを推進することとしている。そして、５つの関連文化財群と、そのもとに展開する 12 の歴史文化ストーリーを整理したところである。

**本計画は、『倉敷市歴史文化基本構想』に掲げる目標の実現に大きな役割を担う「関連文化財群」について、具体的な施策の方向性や方策等を定めることにより、そのまとまりを活かした保存・活用の取り組みを、関係する各主体との協働並びに上位・関連計画等との調整のもとに、計画的に推進していくことを目的として策定するものである。（図１－１）**

なお、この「関連文化財群」のまとまりを活かした取り組みに向けて、倉敷市では、「倉敷市歴史文化基本構想」を踏まえて、観光振興等に積極的に活かしていく歴史文化のテーマを検討し、平成 29 年（2017）2 月に「日本遺産」の認定申請を行い、同年 4 月に「一輪の綿花から始まる倉敷物語　～和と洋が織りなす繊維のまち～」が「日本遺産」に認定されている。

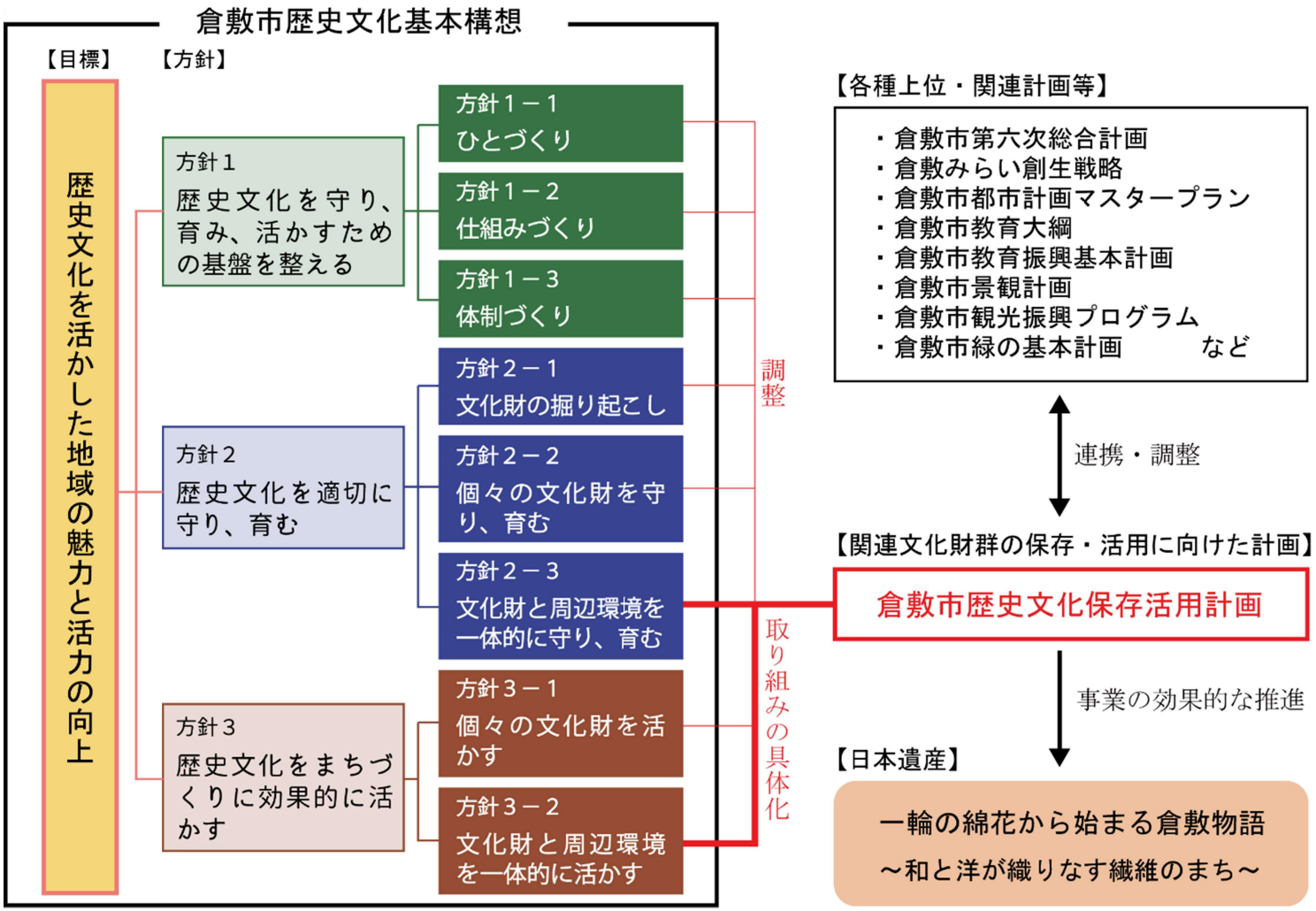



図１－１　倉敷市歴史文化保存活用計画の位置付け

## 1-2　策定の体制及び経緯

本計画は、「倉敷市歴史文化基本構想」に基づいて策定する計画であることから、同構想の策定に当たって組織した「倉敷市歴史文化基本構想等審議会」（倉敷市歴史文化基本構想等審議会条例に基づき、平成 28 年（2016）2 月 10 日に組織）ならびに「倉敷市歴史文化基本構想等庁内会議」を継続して開催し、構想の内容を踏まえた検討・審議のもとに計画づくりを行った。

**表１－１　倉敷市歴史文化基本構想等審議会の構成**

| 区　分 | | 所　属 | 役　職 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学識経験者 | 民俗学、城郭史 | 岡山学院大学・岡山短期大学 | 教　授 | 尾崎　　聡 | 会長 |
| | 近代化遺産 | 吉備国際大学 | 准教授 | 小西　伸彦 | |
| | 考古学 | くらしき作陽大学 | 准教授 | 澤田　秀実 | |
| | 建築学 | 山陽学園大学 | 教　授 | 澁谷　俊彦 | |
| | 観光学 | 倉敷芸術科学大学 | 講　師 | 芦田　雅子 | |
| 関係団体等 | 文化施設 | (公財)大原美術館 | 理事長 | 大原　あかね | |
| | 観光 | (公社)倉敷観光コンベンションビューロー | 専務理事 | 丹下　恒夫 | |
| | マスコミ | (株)倉敷ケーブルテレビ | | 中塚　美佐子 | |
| | まちづくり（倉敷） | 倉敷市中心市街地活性化協議会 | 会　長 | 岡　荘一郎 | 副会長 |
| | まちづくり（児島） | ファッションタウン児島推進協議会 | 理事長 | 髙田　幸雄 | |
| | まちづくり（玉島） | 玉島信用金庫 | | 葺石　寛子 | |
| | まちづくり（水島） | 三菱自動車工業㈱水島製作所 | 副所長 | 野村　泰弘 | |
| 公募委員 | | | | 大塚　文子 | |
| | | | | 峰山　洋子 | |

**表１－２　倉敷市歴史文化基本構想等庁内検討会議の構成**

| | |
|---|---|
| 企画財政局 | 企画財政部 企画経営室 |
| | 市民協働推進部 市民活動推進課 |
| 総務局 | 総務部 総務課 歴史資料整備室 |
| | 防災危機管理室 |
| 環境リサイクル局 | 環境政策部 環境政策課 |
| 文化産業局 | 文化観光部 文化振興課 |
| | 文化観光部 観光課 |
| | 商工労働部 商工課くらしき地域資源推進室 |
| | 農林水産部 農林水産課 |
| | 農林水産部 耕地水路課 |
| 建設局 | 都市計画部 都市計画課 都市景観室 |
| | まちづくり部 まちづくり推進課 |
| | 土木部 公園緑地課 |
| | 建築部 建築指導課 |
| 教育委員会 | 教育企画総務課 |
| | 学校教育部 学事課 |
| | 生涯学習部 生涯学習課 |
| | 生涯学習部 美術館 |
| | 生涯学習部 自然史博物館 |

（事務局）教育委員会 生涯学習部 文化財保護課

表１－３　倉敷市歴史文化保存活用計画の策定経緯

| 年月日 | | 内　容 |
|---|---|---|
| 平成 28 年<br>(2016) | 12 月 22 日 | 「倉敷市歴史文化基本構想」の策定 |
| 平成 29 年<br>(2017) | 4 月 28 日 | 日本遺産の認定<br>「一輪の綿花から始まる倉敷物語　～和と洋が織りなす繊維のまち～」 |
| | 6 月 23 日 | 第４回倉敷市歴史文化基本構想等庁内検討会議の開催 |
| | 7 月 28 日 | 第５回倉敷市歴史文化基本構想等審議会の開催 |
| | 11 月 29 日 | 第６回倉敷市歴史文化基本構想等審議会の開催 |
| 平成 30 年<br>(2018) | 2 月 1 日～2 月 28 日 | 倉敷市歴史文化保存活用計画（素案）に対するパブリックコメントの実施 |
| | 月　日 | 第７回倉敷市歴史文化基本構想等審議会の開催 |
| | 3 月　日 | 倉敷市歴史文化保存活用計画（案）を倉敷市教育委員会へ答申 |
| | 3 月　日 | 倉敷市教育委員会にて倉敷市歴史文化保存活用計画の策定について議決 |

## １-３　計画の期間

本計画の期間は、2018 年 4 月から 2028 年 3 月までの 10 年間とする。

なお、本計画は、日々変遷する時代に対応していくため、社会経済情勢の変化や計画に基づく取り組みの進捗状況等に応じて、柔軟に変更、修正を行う。

# 2　関連文化財群の保存・活用に向けた基本的な考え方

## 2-1　関連文化財群の保存・活用にあたっての視点

倉敷市歴史文化基本構想では、倉敷市における関連文化財群を「倉敷市の歴史文化を解説する役割」と併せて、「倉敷市における歴史文化を活かしたまちづくりを戦略的かつ効果的に進める役割」をもつまとまりとし、特に地域間のつながりや倉敷市全体のまとまりを作り出し、地域を超えた横断的な取り組みを進めるために、表２－１の５つの関連文化財群と、そのもとに展開する 12 の歴史文化ストーリーを設定した。

そして、同構想に掲げた「歴史文化を活かしたまちづくりの方針」では、これらの関連文化財群を手掛かりに、文化財と周辺環境とを一体的に守り、育み、活かして、歴史文化の保存・活用の取り組みを推進していくことを示した。

そこで、本章では、これらの関連文化財群（歴史文化ストーリー）を活かした保存・活用の取り組みのベースとなる基本的な考え方（取り組みの方向性・検討の視点）を、それぞれの関連文化財群（歴史文化ストーリー）ごとに整理する。

**表２－１　倉敷市の関連文化財群と歴史文化ストーリー**

| 関連文化財群 | | 歴史文化ストーリー |
|---|---|---|
| 1 暮らしと文化を支える流通・交易 | 吉備の穴海や瀬戸内海、高梁川・倉敷川等、さらには山陽道等の陸路を介した広い地域との交易が、原始・古代から現代まで受け継がれてきた。<br>海・川と陸の流通・交易のせめぎあい、そして相互のつながりが倉敷市の歴史文化の基盤となり、形を変えながらもその発展を支え続けている。 | ① 海と川を介した流通・交易 |
| | | ② 陸上交通による人や物資の往来 |
| 2 魅力と活力を育む殖産の精神 | 先人たちの殖産の精神は、各時代背景を反映しながら地域の産業・生業を革新・発展させ、活力ある歴史文化を作り出してきた。<br>その精神は現代に受け継がれ、歴史文化により一層磨きをかける取り組みが進められている。 | ③ 干拓と農業 |
| | | ④ 海・里・山の恵みを活かした殖産 |
| | | ⑤ 繊維産業の展開と継承 |
| 3 地域の個性を反映した信仰 | 児島五流を中心とした熊野信仰や瑜伽山信仰をはじめ、倉敷市内の社寺には、海と山との関係の深いものが多く見られる。<br>神仏への信仰は、参詣の道筋の町場を発展させるとともに、各地域においては、生活や生業、伝承や民話などを反映した祭礼・行事等として受け継がれ、ハレの景観を作り出している。 | ⑥ 信仰の聖地 |
| | | ⑦ 地域性を表す信仰と祭礼・行事 |
| 4 要衝の地に刻まれた記憶 | 畿内と西国を結ぶ要衝に位置する倉敷市では、我が国の歴史の本流に大きく関わりながら歩みを続けてきた。<br>そこに育まれてきた史実や説話・伝承などの記憶は、遺跡や町並みなどをより魅力的なものとし、多くの人々を惹きつけるものとなっている。 | ⑧ 勢力の狭間 |
| | | ⑨ 天下分け目の戦乱 |
| | | ⑩ まちの発展を支える水島臨海工業地帯 |
| 5 文教・美観が織りなす豊かな暮らしと観光 | 備讃瀬戸をはじめとした美しい自然景観は、古くから多くの人々を誘い、文学芸術活動の場となってきた。一方で、早くから学問や文化・芸術が息づく中で、多くの偉人を輩出するとともに、自然や町並みを守り、豊かな暮らしを育んできた。<br>人々の往来は、多様な民芸品や食文化等を育む礎となり、近年では、その文教や美観を活かした観光振興や大学連携、環境学習など、文教都市としての新たな展開を見せている。 | ⑪ 景勝を守り、育み、活かす心 |
| | | ⑫ 文教が息づくまち |

詳細は、「倉敷市歴史文化基本構想」71～138 頁を参照

## 2-2　関連文化財群ごとの保存・活用の方向性

関連文化財群１

# 暮らしと文化を支える流通・交易

### 【 関連文化財群としての保存・活用の方向性 】

古くからの地勢の移り変わりとそこに展開した海・川・陸の流通・交易が、現在に受け継がれるさまざまな歴史文化の基盤となっていることを感じられる場づくりを進める。

### 【 歴史文化ストーリーごとの保存・活用の方向性 】

歴史文化ストーリー①

## 海と川を介した流通・交易

**ア．個々の文化財の保存・活用の方向性**

**○ 瀬戸内海の形成を跡付ける遺跡群の保存・整備**

・鷲羽山遺跡に代表される旧石器時代の遺跡や縄文時代の貝塚群など、海退・海進の歴史と関わりのある遺跡について調査を進め、可能な場合は文化財指定の検討を行うなど、保存に必要な措置を講じる。

**○ かつての水運を物語る河川・水路等の保全・整備**

・倉敷川をはじめ、市内を流れる小河川や水路等の水質改善や親水空間の整備等を検討する。

・かつての高瀬通しのうち、可能な区間の復元や遺構表示等の整備を検討するとともに、沿川に残る遺構・痕跡の掘り起こしを進め、周辺の文化財等と連携した回遊性の向上を図る。

**○ 水運との関係がうかがえる遺跡の保存・整備**

・上東遺跡をはじめ酒津遺跡や亀山焼窯跡など、かつての水運や交易との関係がうかがえる遺跡の調査を進め、未指定の遺跡は文化財指定等の可能性を検討するなど、適切な保存措置を講じる。

・高台に位置する遺跡等は、周辺環境との関係を勘案しつつ、必要に応じて樹木の伐採等によるかつての吉備の穴海への眺望の確保や解説板の整備等を行うことにより、遺跡の価値を伝える。

**○ 港町・川湊町の保全・形成**

・倉敷美観地区については、重要伝統的建造物群保存地区として町並みの保存を図るとともに、川舟流しなど、川に関わるイベントを継続的に開催する。

・下津井や玉島、天城・藤戸など、かつて水運で栄えた港町・川湊町について、倉敷市景観計画等との連携・調整のもとに景観形成方策を検討し、町並みの保全・形成を図る。

**イ．文化財群の保存・活用の方向性**

**○ ネットワークの拠点形成**

・下津井、玉島、倉敷美観地区、天城・藤戸等のかつての港町や川湊町を拠点として、「海と川を介した流通・交易」に関する情報発信等を積極的に行う。

**○ 海と川を介した流通・交易に係る文化財の調査・研究とその成果の情報提供**

・「海と川を介した流通・交易」を切り口として、文化財の調査・研究を進めるとともに、その状況や成果を広く情報提供する。

**○ 視点場の整備**

・「島」の地名が残る小丘や遺跡が残る高台など、かつての吉備の穴海の広がりなどを感じられる市域の地勢を広く臨める地点について、視点場としての整備を検討する。

○ 広域的なネットワークづくり

・高梁川流域連盟や北前船寄港地間の連携等を通じて、市域を超えた広域的な取り組みを進める。

歴史文化ストーリー②

## 陸上交通による人や物資の往来

ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

○ 古道・街道や鉄道などに関わる文化財の指定・登録の検討

・文化財の調査・研究を進め、古道・街道や鉄道などに関わる歴史的建造物や遺跡などの把握を進める。また、そのうち未指定等の文化財で、文化財的な価値が高く、所有者等の理解・協力が得られるものについては、文化財への指定・登録を進める。

○ 古道・街道の景観づくり

・古代山陽道や西国街道沿いの文化財に留意し、それらの道筋からの見え方に配慮した景観の保全・形成方策を検討する。

・沿道に歴史的な町並みが残る地域については、倉敷市景観計画との連携・調整のもとに、建築物・工作物等の形態・意匠の誘導などによる景観形成を検討するとともに、道路の美装化や道路施設の修景の優先的な実施などを通じた道筋の歴史や風情を感じられる景観づくりを進めるための方策を検討する。

○ 交通に関連する文化財をまちづくりに活かす

・古道・街道や橋梁、廃線跡などの交通に関連する文化財を、他の歴史文化ストーリーと関係づけながらまちづくりに活かす。

イ．文化財群の保存・活用の方向性

○ ネットワークの拠点形成

・古代山陽道や西国街道をはじめ、玉島往来、鴨方往来、金毘羅往来などの古道・街道をネットワークの軸として、沿道地域の連携を深めるとともに、古代駅家や近世川辺宿などの宿場・街道町をネットワークの拠点として、歴史的風情を感じられる景観づくり方策を検討するとともに、古道・街道に係る情報発信を行う。

・下津井電鉄の鉄道用地跡に整備された児島-下津井間をつなぐ「風の道」を、文化財相互の関係を感じられる軸として、より効果的に活かしていくための方策を検討する。

○ 「陸上交通」に関わる文化財の調査・研究とその成果の発信

・古代山陽道と廃寺や遺跡などとの関係、また、古代駅家や近世川辺宿、道標など、「陸上交通」を切り口として、文化財の調査・研究を進めるとともに、その成果を広く発信する。

○ イベントの開催

・古道・街道沿いの道標や石仏、町並み、寺社、遺跡をとり入れたウォーキングイベントなど、古道・街道を中心に展開するイベント等の開催を検討する。

○ 広域的なネットワークづくり

・古代山陽道や西国街道などの広域にわたる道筋のつながりを介して、関連する市町村との連携を図りながら古道・街道の活用を推進する。

【 関連文化財群の保存・活用の拠点 】

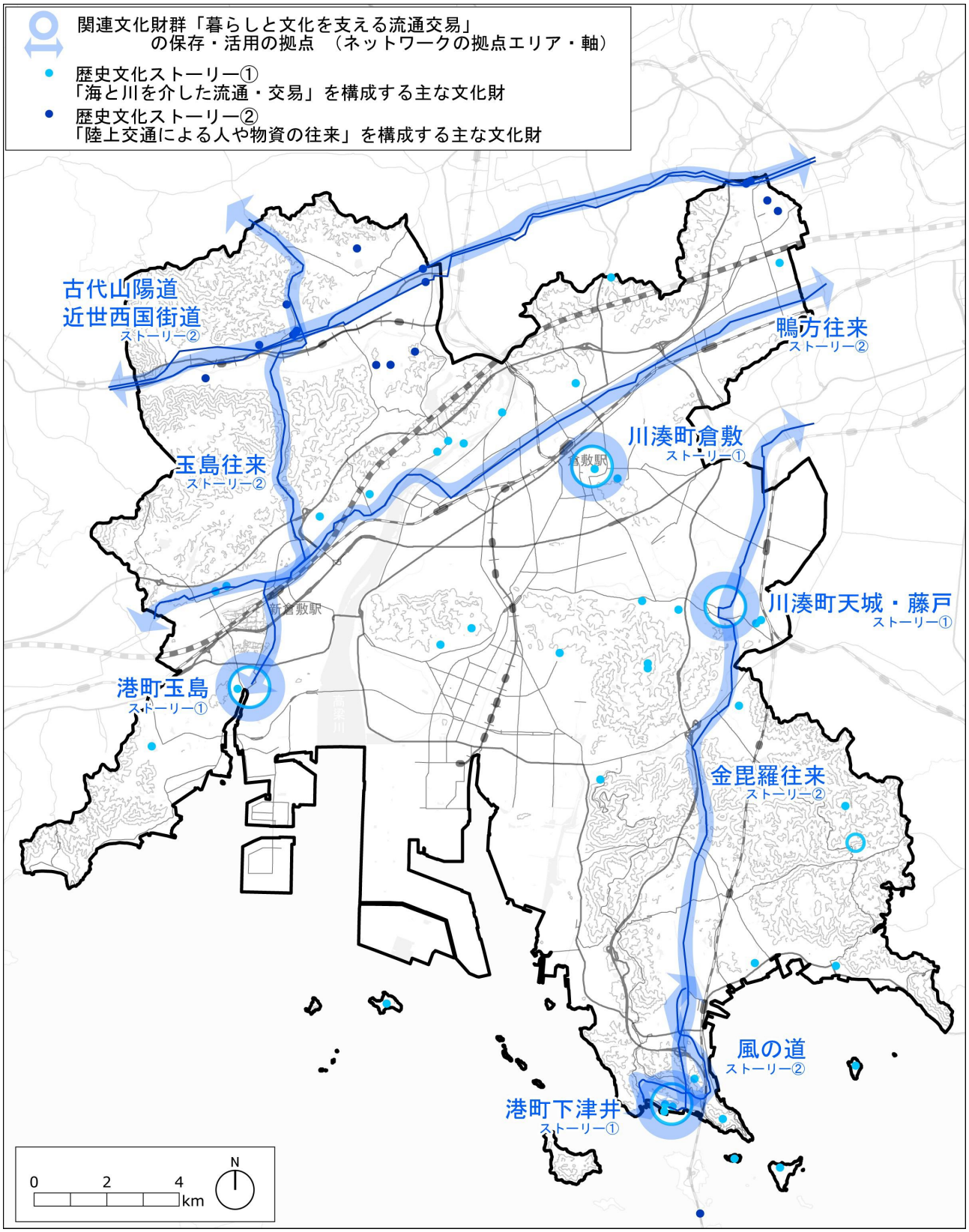



図２－１　関連文化財群「暮らしと文化を支える流通・交易」の保存・活用の拠点

関連文化財群２

# 魅力と活力を育む殖産の精神

## 【 関連文化財群としての保存・活用の方向性 】

地域ブランドづくり等の産業を活かした地域活性化を図るとともに、地域産業の創り出してきた歴史文化に対する意識啓発と、現代に受け継がれた精神を感じる風景づくりを進める。

## 【 歴史文化ストーリーごとの保存・活用の方向性 】

歴史文化ストーリー③

### 干拓と農業

ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

○ 干拓によって生み出された親水環境の保全・整備

・町並みや農地の広がり、周辺の自然等と用水との調和に留意した景観づくりを進める。

・河川・水路等の定期的な清掃等により、豊かな農作物を育む清流を確保するとともに、多様な水生生物の生息に適切な環境づくりに努める。

・河川・水路等の可能な箇所については、親水空間整備や開渠化等を検討するとともに、消火用水源としての利用を促進するなど、多くの人々が水に触れ合い、清らかな水の恵みを身近に感じられる生活環境づくりを進める。

○ 干拓に係る土木構造物（水門・樋門等）の調査並びに保全・整備

・水門・樋門、水路に架かる橋梁などの価値の調査を進め、必要に応じて文化財への指定・登録等による保存の措置を講じるとともに、Ｗｅｂや案内板などを通じて、魅力を広く発信する。

○ 特産品を産する農空間の保全

・れんこん畑やごぼう畑などの多面的機能を有する農空間の適切な保全を図るため、特産品の販路拡大などの農業振興策や都市計画的な手法の活用などを検討する。

イ．文化財群の保存・活用の方向性

○ ネットワークの拠点と軸の形成

・高梁川東西用水取配水施設が位置する酒津公園を拠点とし、高梁川東西用水組合事務所の一部公開・活用等を検討し、倉敷市域の干拓から高梁川改修に至る歴史や現在に残る水路網や水門・樋門などに係る情報を集約して発信する。

・酒津公園を中心に水路や橋梁、歴史的な町並みや巨樹、祐安の水車群など、干拓と農業に関連づけながら巡る周遊ルートづくりや景観づくりを進め、拠点としての面的な広がりを形成する。

・水路周辺の景観づくりを進めるとともに、水路網を軸とした回遊性の向上を図る。

○ 倉敷の歴史文化の成り立ちを体験しながら学べる場づくり

・干拓に係る土木構造物と農空間やごぼう抜き取り体験などの体験学習などの取り組みとのネットワークを形成し、倉敷の歴史文化の成り立ちを楽しみながら学ぶことができる場づくりを進める。

歴史文化ストーリー④

## 海・里・山の恵みを活かした殖産

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 殖産の歩みを伝える文化財の活用**

・旧野﨑家住宅や野﨑家塩業資料館等の製塩業に係る文化財を通じて、倉敷における製塩の歴史や近世・近代の倉敷の製塩業の全国的な位置づけなどを分かり易く、魅力的なものとして発信するよう努める。

・帯江銅山等の鉱山跡や上水島精錬所跡に残る遺構の保全・活用を検討する。

**○ 食文化や地場産業の再興**

・れんこんやごぼう、果樹、たけのこなどの農産物や、タコやママカリなどの海産物を使った伝統的な食文化の掘り起こしや再興に努める。

・花莚や麦稈真田、緞通、酒津焼、刀剣、酒、薄荷の生産・製造などの地場産業の調査・研究を進めるとともに、担い手の育成や技の継承、材料・資材の調達の仕組みづくりや観光活用など、産業としての再興と持続的な発展に向けた課題等の検討を行う。

・海・里・山の恵みを活かした倉敷産物のコラボレーションを促進し、新たな商品開発やブランドづくり、販路開拓・拡大等を検討する。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 産物と産地をつなぐ**

・市内各地での特産品の販売にあたって、それらの歴史や生産者・製造者、産地などの紹介や特典の付加などのさまざまな手法を用いることで、購入者が倉敷の特産品に係る歴史文化を学ぶとともに、産地にも訪れるよう、産物と産地をつなぐ仕掛けづくりを検討する。

**○ 産地の景観形成**

・海・里・山の恵みを生み出す場となる建物や町並み、生業や自然などがつくり出す景観の保全・形成やそれらを眺めることができる視点場の整備等を進め、生産・製造等の活動と一体となって形成される歴史的な風致を感じられる環境づくりを進める。

**○ 産業・産物ごとの拠点形成と各拠点の連携**

・産業・産物の中心となる産地や施設等において、情報発信、担い手育成や技術継承、産業観光などの取り組みを検討し、拠点づくりを進める。

・各産業・産物の拠点が相互に連携し、地場産業の魅力や地域の歴史を楽しく学べるイベントを開催することにより、各拠点における取り組みの効果を高める。

歴史文化ストーリー⑤

## 繊維産業の展開と継承

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 備中綿の生産・加工・流通等の支援**

・活動団体による玉島コットンロードの取り組みなど、綿産地として栄えた県南平野部で育まれた備中綿の生産・加工・流通等の再興を支援する。

**○ 繊維産業に関連する建物・用具・遺構等の保存・活用**

・かつての綿問屋や綿蔵など、繊維産業に関連する建物のうち、保存状態が良いものについては、文化財の指定・登録等を検討するとともに、所有者の合意のもとに、公開・活用等を通じて倉敷の繊維産業の展開を物語る貴重な資源として活用する。

・繊維産業の繁栄を支えた織機などの用具類について、広く市民から情報提供等を募り、掘り起こしを行う。また、特に文化財的な価値の高いものについては、所有者の合意のもとに、文化財指定等による保存の措置を講じるとともに、公開・展示等を行うことを検討する。

・近代の繊維工場の跡地等については、現状の土地利用等を勘案した上で、可能なものについては、かつての風景写真や解説等による案内板を設置するなどにより、町の記憶の継承に努める。

**○ 繊維産業の振興**

・繊維産業の異業種間や他産業との協業・コラボレーション等を促進し、新たな商品開発やブランドづくり、販路開拓・拡大等を図る。

・海外見本市への出展支援や海外バイヤー招聘による商談会、セミナー等により、繊維産業の海外販路開拓・拡大を図る。

・繊維工場の見学ツアーやジーンズづくりや染め体験などの体験ツアーなど、繊維産業を活かした多彩な観光メニューを用意する。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 繊維産業に係る調査・研究の推進**

・かつての綿畑や井戸群の分布調査をはじめ、綿栽培や紡績、染色、織りなどの繊維産業の各工程に関する資料の収集・整理並びに調査・研究を進める。

**○ ３つの拠点と拠点間のネットワーク形成**

・倉敷、児島、玉島の３地域を拠点として位置づけ、繊維産業の展開と継承に係る歴史文化の魅力を発信していくとともに、３つの拠点を巡るためのネットワークの仕組みづくりを検討する。

**○ 繊維産業がつくる歴史文化を学び、伝える**

・市内の小学校や市民が栽培した綿花で糸を紡ぎ、ジーンズを製作する過程を通じて、倉敷の繊維産業の歴史を学び、郷土への愛着と誇りを再確認する「くらしきコットンプロジェクト」（「倉敷市」50 周年記念事業）の理念を引き継ぎ、継続的な取り組みにしていくため、新たな事業や支援のあり方等を検討する。

**○ 日本遺産との連携**

・日本遺産の魅力発信事業と連携し、繊維産業を中心に、さまざまな文化財をつなぐストーリーを活用した観光振興・地域活性化を図る。

・日本遺産の認定による倉敷の繊維産業への興味や関心を継続的に高めていく方策を検討する。

## 【 関連文化財群の保存・活用の拠点 】

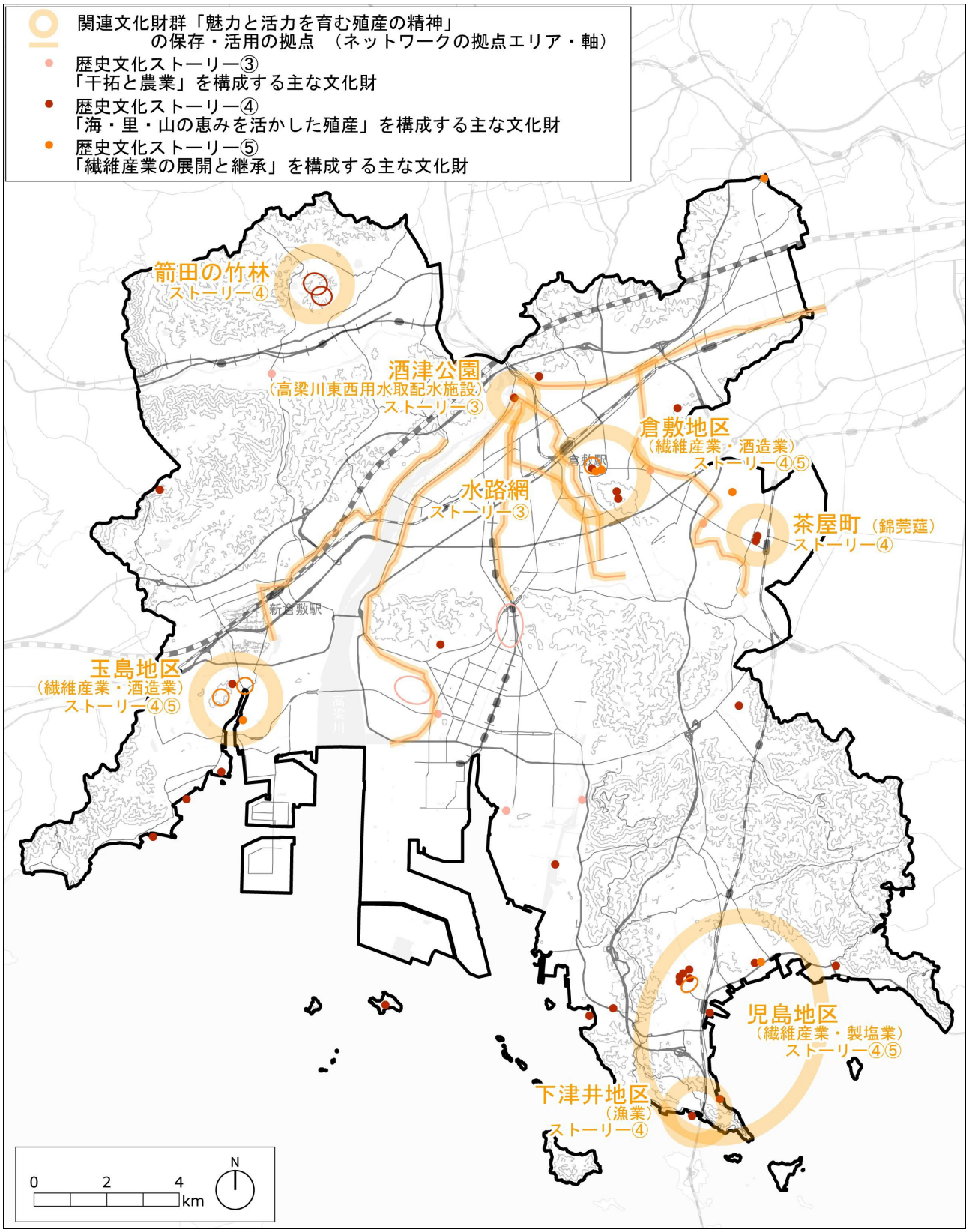



図２－２　関連文化財群「魅力と活力を育む殖産の精神」の保存・活用の拠点

関連文化財群３

# 地域の個性を反映した信仰

## 【 関連文化財群としての保存・活用の方向性 】

現在に受け継がれる祭礼・行事や習俗等の根底にある信仰の本質を後世に伝えるとともに、舞台となる建造物や集落、道筋等が一体となって作り出す歴史的風致を維持・向上する。

## 【 歴史文化ストーリーごとの保存・活用の方向性 】

歴史文化ストーリー⑥

### 信仰の聖地

ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

○ 文化財の保存

・熊野神社、五流尊瀧院、由加神社、蓮台寺など各寺社に残る文化財を保存、継承する。

○ 町並みの保全・形成

・倉敷市景観計画等との連携・調整のもとに景観形成方策を検討し、天城・藤戸、瑜伽門前町の町並みの保全・形成を図る。

イ．文化財群の保存・活用の方向性

○ 信仰の聖地に係る歴史文化ストーリーの拠点と軸の形成

・倉敷における熊野信仰の中心である熊野神社・五流尊瀧院・新熊野山を中心とした郷内地区並びに瑜伽山信仰の中心である由加神社・蓮台寺と由加門前町を拠点エリアとして、信仰の聖地に係る歴史文化ストーリーの魅力を発信する。

・道標等の往来に関連する文化財の掘り起こし・整理を行い、金毘羅往来等のかつて信仰に使われてきた道筋を顕在化し、信仰の歴史や文化を感じられる空間づくりを進める。

○ 自然環境の保全

・海と山の双方に関係を持つ信仰の聖地である寺社周辺の豊かな自然環境を適切に管理し、寺社等の歴史的な建造物と周辺の自然環境とが一体となってつくり出される歴史的な風土の保全を図る。

○ 金毘羅・由加の広域的なネットワークづくり

・金毘羅（香川県仲多度郡琴平町）・由加の両参りの風習を参考に、イベントや両参り行程を含めたパッケージ化など、実施可能な広域連携のあり方を検討する。

歴史文化ストーリー⑦

## 地域性を表す信仰と祭礼・行事

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 地域の祭礼・行事の継承・記録化等**

・担い手育成や祭礼・行事の精神や技の伝達、祭具等の補修・整備、祭礼・行事の内容の記録化等を支援し、地域性を反映して受け継がれてきた祭礼・行事を継承する。また、祭礼・行事、神事の内容等で、可能なものについては、伝統的な様式の復活を支援する。

・継承が危ぶまれる祭礼・行事については、各地域において、継承のために必要な措置等の検討を進め、やむを得ず内容を一部変更したり、中止・廃止する場合には記録保存を行う。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 地域の祭礼・行事に係る調査・研究の推進**

・祭礼・行事の成立背景や変容の推移、用具等の類似性や祭礼・行事の地域的なまとまりなどについての調査･研究を進め、地域に還元していくことにより、地域間の交流や連携体制の構築、さらには、失われた祭礼・行事の復活などへの展開を促す。

**○ 祭礼・行事の場となる空間や周辺環境の保全**

・地域の祭礼・行事と建造物や集落等の空間構成の関係についての調査・研究を進め、歴史的建造物や集落等と祭礼・行事とが一体となってつくり出す歴史的な風致の維持・向上のための方策を検討する。

**○ 地域の特徴を表す祭礼・行事の重点的な継承支援とモデルづくり**

・民俗文化財に指定されている祭礼・行事が執り行われる地域を拠点として、神事の舞台となる歴史的な建造物等の保全や祭具等の修理・修復、継承に向けた担い手の育成などを支援し、倉敷の地域の個性豊かな祭礼・行事の魅力を次世代に継承する。また、それらを祭礼・行事継承のモデルとして、市内各地における祭礼・行事の継承に向けた必要な視点や手法等の研究・実践を進める。

## 【 関連文化財群の保存・活用の拠点 】

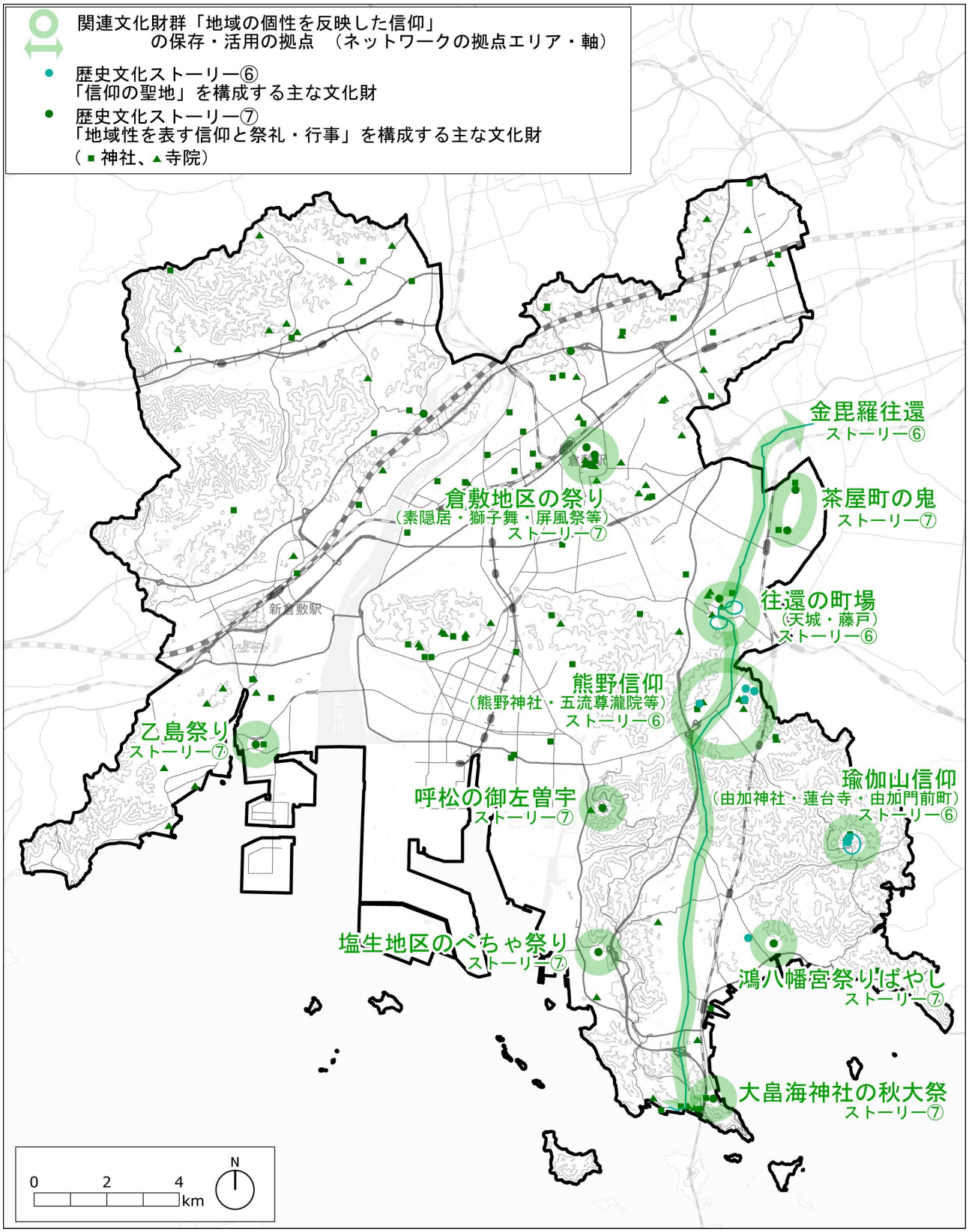



図２－３　関連文化財群「地域の個性を反映した信仰」の保存・活用の拠点

関連文化財群４

# 要衝の地に刻まれた記憶

## 【 関連文化財群としての保存・活用の方向性 】

日本の歴史との深い関わりの中に見いだされる倉敷市の歴史文化の価値を再認識し、自らの地域の歴史文化に対する誇りと愛着を育める環境づくりを進める。

## 【 歴史文化ストーリーごとの保存・活用の方向性 】

歴史文化ストーリー⑧

### 勢力の狭間

**ア．個々の文化財の保存・活用の方向性**

**○ 文化財調査と保存・整備の検討**

・古墳群や廃寺等の遺跡の調査・研究を推進し、価値や魅力の新たな発見に努める。

・未指定の文化財のうち、文化財的な価値の高いものについては、所有者の合意のもと、文化財への指定による保存の措置を講じるとともに、活用に向けた整備を検討する。

**イ．文化財群の保存・活用の方向性**

**○ 地域住民との協働による文化財調査の推進**

・地域住民とともに文化財調査を実施することにより、日本の歴史のなかでの地域の文化財の価値を再認識するとともに、より文化財を身近なものとして感じ、地域に対する誇りや愛着の醸成を図る。

**○ 関連する文化財のさらなる掘り起こしと拠点エリアの形成**

・真備地域や庄地域における「古代吉備に関する遺跡群」や玉島地域における「西爽亭と熊田恰」をはじめ、市内各地域に展開する「勢力の狭間」に関連する文化・文化財をもとに、それぞれの地域や中心となる時代・テーマごとに、関連する文化財のさらなる掘り起こしを進め、最新の科学技術を活用した魅力発信ツールの開発や文化財周辺の景観づくり、文化財をつなぎ合わせた周遊ルートづくりなどを進め、面的に広がる拠点エリアの形成に努める。

**○ 広域的な歴史との関係がつくる魅力の活用**

・日本の歴史や備前・備中地域の歴史などの広域的な歴史のなかで果たしてきた役割や価値、位置づけを分かりやすく、魅力的な形で整理し、Ｗｅｂやパンフレットなどのさまざまな方法を通じて、広く発信する。

・市域北部に分布する古代吉備に関連する遺跡群については、真備地域・庄地域の２つの拠点地域の間に位置する狸岩山古墳などの遺跡や山間の遊歩道などを活かして、両地域の歴史的・空間的なつながりを創出する。また、近隣自治体の関連遺跡群との連携を図ることで、より一層魅力的なものとして打ち出して活用を推進する。

歴史文化ストーリー⑨

## 天下分け目の戦乱

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 中世城跡の調査と保存・整備**

・中世城跡の調査・研究を推進し、価値や魅力の再発見に努める。

・未指定の文化財のうち、文化財的な価値の高いものについては、所有者の合意のもと、文化財への指定による保存の措置を講じるとともに、活用に向けた整備を検討する。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 拠点となる視点場の整備**

・源平合戦の古戦場（水島の戦い、藤戸の戦い）を望む高台や備中高松城水攻めに関連する日差山城跡などを、天下分け目の戦乱の地を望む拠点と位置づけ、眺望空間の確保や整備を図る。

・ＡＲなどの技術を活用しながら、現在の眺望にかつての合戦の様子を投影するなど、視点場からの眺望のより一層の魅力向上を図り、多くの人々の来訪を促すとともに、教育等への活用を検討する。

**○ 文化財の調査と地域連携**

・天下分け目の戦乱に関連すると思われる民俗行事をはじめとした地域の文化財について、地域住民からの聞き取りなどを行いながら掘り起こしや把握調査を進め、より広がりと奥行きのあるストーリーづくりを進める。

**○ 周遊ルートと広域的なネットワークづくり**

・源平合戦における源氏・平氏の双方の陣営や関連する遺跡・遺構等を巡る周遊ルートを整備し、回遊性の向上を図る。

・源平合戦や戦国期の数々の戦乱、備中高松城水攻めは、広域的な勢力動向や戦乱の展開のなかに位置付けることで、より一層その魅力が高まるものであることから、近隣の自治体や瀬戸内海沿岸の関連する自治体等と連携して活用していくことを検討する。

歴史文化ストーリー⑩

## まちの発展を支える水島臨海工業地帯

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 水島臨海工業地帯に係る文化財・文化財候補の掘り起こしと保存・活用**

・水島臨海工業地帯に操業する各企業の協力のもとに、工業地帯の形成や発展の歴史を物語る貴重な工場施設・設備等の把握を行い、可能なものについては、登録文化財への登録などの保存に向けた措置を講じる。また、現段階では登録が難しいような新しい物件等についても、特に貴重なものについては、将来的な登録文化財候補として位置づけ、保存に向けた所有企業との協力体制を構築する。

・公害に係る資料を適切に保存するとともに、それらの公開や勉強会の開催などを通じた環境学習の取り組みを展開する。

**○ 戦跡の保存・継承と平和教育への活用**

・亀島山地下工場など、太平洋戦争の戦跡について文化財への指定等を検討するとともに、ガイドマップや現地見学会等を通じて、平和教育へのより一層の活用方策を検討する。

・戦争経験者からの聞き取りや講演会をはじめ、連島中学校生徒らによる電子紙芝居の作成などのようなさまざまなかたちで戦争の記憶を後世に受け継ぐ取り組みを支援する。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 水島臨海工業地帯の歴史**

・水島臨海工業地帯を市域における平和教育・環境学習の拠点とし、水島臨海工業地帯の工場群や緩衝緑地、戦跡などを一望できる視点場の整備や、工場・戦跡の見学会などを通じて、平和教育・環境学習に関わるさまざまな取り組みを展開する。

**○ 水島市街地の歴史**

・太平洋戦争末期の工業都市としての面影を色濃く残している水島市街地について、当初の土地区画整理に係る資料等の掘り起こしや調査を進め、文化財としての価値付けを適切に行う。

・地域住民や関係団体と協力して、亀島山地下工場を含めた水島市街地の見学会や関連シンポジウムを開催するなど、水島地区の成り立ちや歴史についての理解を促進する取り組みを行う。

**○ さまざまな主体の連携**

・企業・住民・行政等のさまざまな主体の連携によって、公害からの環境再生を持続可能な社会を作る学びとして活かす取り組みを推進する。

## 【 関連文化財群の保存・活用の拠点 】

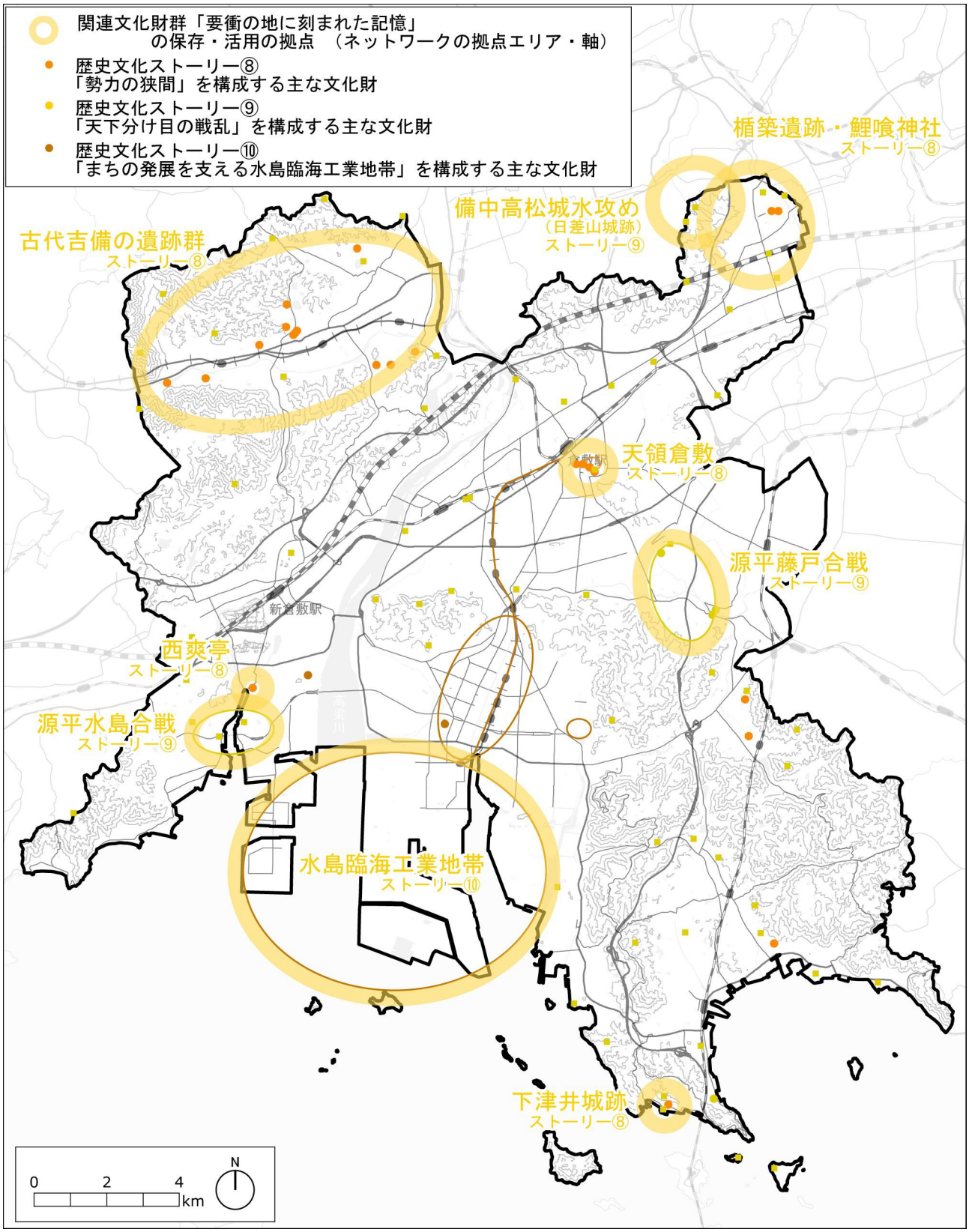



図２－４　関連文化財群「要衝の地に刻まれた記憶」の保存・活用の拠点

関連文化財群５

# 文教・美観が織りなす豊かな暮らしと観光

## 【 関連文化財群としての保存・活用の方向性 】

文教・美観をより一層育み、地域の豊かな歴史文化を感じられる生活環境をつくりだすとともに、それらをまちづくりや観光振興に活かし、地域の活力の向上に結びつける。

## 【 歴史文化ストーリーごとの保存・活用の方向性 】

歴史文化ストーリー⑪

### 景勝を守り、育み、活かす心

**ア．個々の文化財の保存・活用の方向性**

**○ 自然環境の保全**

・鷲羽山や王子が岳における雑木林等の適切な管理のもと、備讃瀬戸の多島美などを望むことができる瀬戸内海国立公園の豊かな自然環境を保全する。

**○ 歴史的な町並みの保存・継承**

・重要伝統的建造物群保存地区として、倉敷川畔地区の歴史的な町並みを保存・継承する。また、倉敷市景観計画との連携・調整のもとに景観形成方策を検討し、玉島や下津井の県指定町並み保存地区をはじめ、市内各所に残る歴史的な町並みの保存・継承を図る。

**○ 伝統の技と知恵の保全・継承**

・教育との連携や体験などを通じて、民芸品・工芸品や郷土料理などの伝統の技や知恵の継承を図る。

**イ．文化財群の保存・活用の方向性**

**○ 伝建地区と周辺地域が一体となった、倉敷ならではの個性を感じられる空間づくり**

・伝建地区の古い町並みの区域と周辺の新しい町並みの区域との連続性に留意し、倉敷のまちづくりの個性である「新旧の調和」に基づく都市計画を念頭に置いた開発・整備と文化財の保存を行う。

・歴史的風致維持向上計画の策定を進めるなかで、伝建地区と周辺地域を重点区域として位置付けて施策の具体化を図ることを検討する。

**○ 景勝を守り、育み、活かす拠点の形成**

・倉敷美観地区や鷲羽山など、全国に誇る美しい景観がみられる地域やその保全・形成等に係る取り組みの中心となってきた地域の視点場を整備し、豊かな自然環境や歴史的な町並みを通じて、倉敷にしかない「美」の宣伝を図る。

**○「景観を守り、育み、活かす心」の醸成**

・町並みや景観に関するシンポジウム等の開催を通じ、「景勝を守り、育み、活かす心」をもつ市民の輪を広げ、豊かな自然環境や美しい町並みの保全・形成等の取り組みを全市に展開する。

歴史文化ストーリー⑫

## 文教が息づくまち

### ア．個々の文化財の保存・活用の方向性

**○ 倉敷の歴史文化に関わる偉人等に関連する文化財の保存**

・活動団体等による顕彰活動を支援するとともに、近代建築や近代化遺産、美術工芸品など、倉敷の歴史文化に関わる偉人等が遺した文化財の価値の把握に努め、必要に応じて指定・登録等による保護の措置を講じる。

**○ 教育に関わる文化財の掘り起こしと保存・活用**

・教育の歴史を如実に示す重要な用具や教材等を収集し、また、校内の巨樹・巨木などのように卒業生が次の世代に残していきたいと思うものを適切に保存する。併せて、それらを見学する機会等を設けることで、文教が息づくまちの歴史の発信に努める。

・倉敷市立西中学校校舎など、教育の歴史を感じることができる文化財について、指定・登録等を進め、可能な限り教育現場で活用する。

**○ 地域の教養文化等の調査・研究**

・茶道や華道、囲碁、音楽など、庶民の生活の中で愛されてきた教養文化について、各地域における展開についての調査やそのなかで生み出された文化財の掘り起こしを進める。

・旧町名や小字名、風習や習俗など、現代社会の中で消えかけている文化的遺産の調査・整理を進め、身近な地域の歴史を学び伝える。

### イ．文化財群の保存・活用の方向性

**○ 関連する文化財のさらなる掘り起こしと拠点エリアの形成**

・個々の偉人や生活文化などによる小さなテーマを設定し、関連する文化財のさらなる掘り起こしを進め、それらをつなぎ合わせて面的に広がる拠点エリアを形成する。

**○ さまざまな主体の連携**

・顕彰活動等を行う各活動団体の情報交換・連携の場づくりや、市外の同テーマで取り組む活動団体との連携の支援などを通じて、各団体の連携による活動のさらなる発展を促す。

・学校教育や生涯学習、大学等との連携事業の拡充により、文教が息づくまちのより一層の向上を図る。

【 関連文化財群の保存・活用の拠点 】

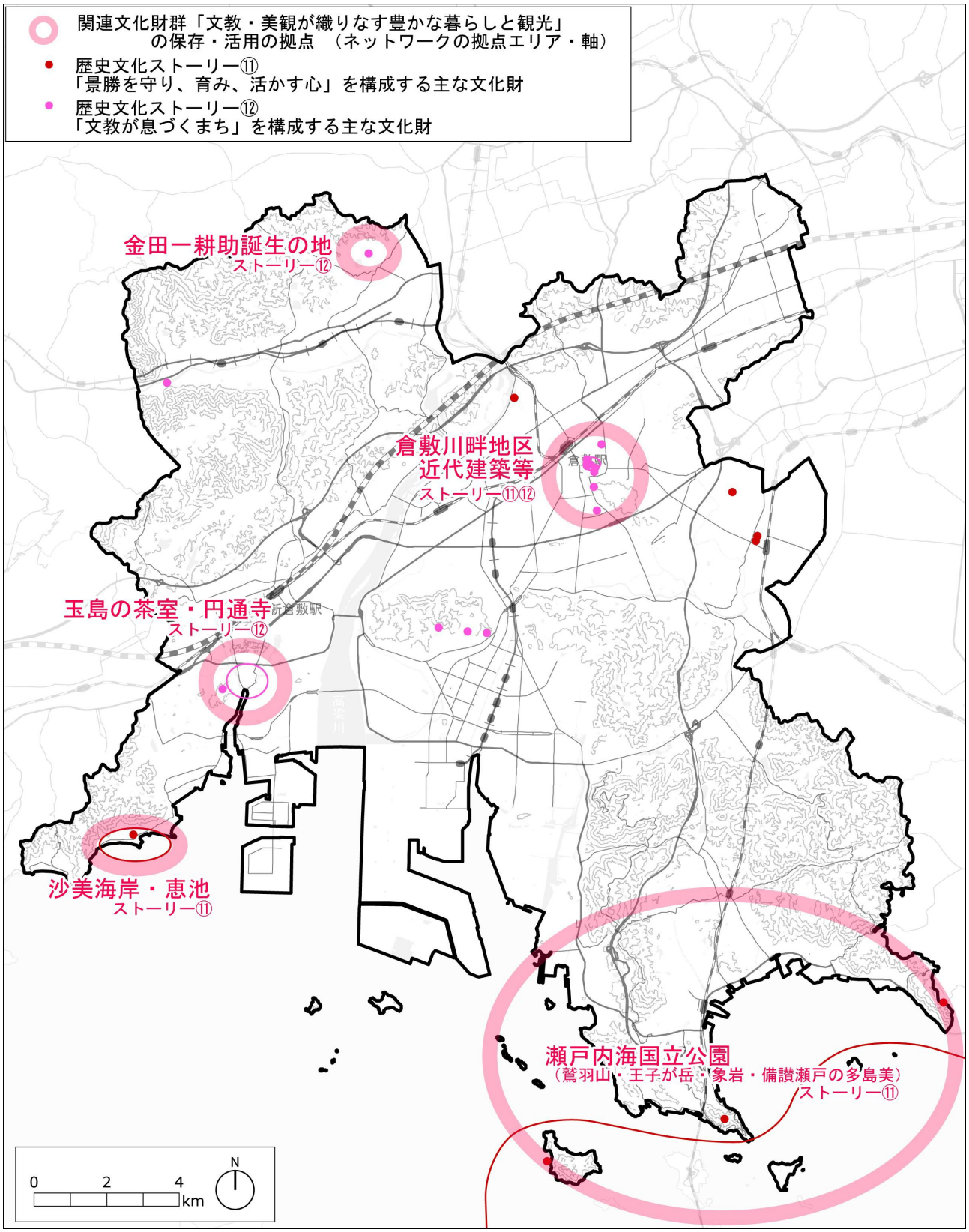



図２－５　関連文化財群「文教・美観が織りなす豊かな暮らしと観光」の保存・活用の拠点

# 3　関連文化財群の戦略的な保存・活用

## 3－1　構成文化財の着実な保存・活用と歴史文化保存活用区域における戦略的な保存・活用

関連文化財群の保存・活用にあたっては、『倉敷市歴史文化基本構想』に示す方針並びに本計画第２章「２－２　関連文化財群ごとの保存・活用の方向性」に基づき、倉敷市の関連文化財群（歴史文化ストーリー）を構成する各文化財の保存・活用の取り組みを着実に推進し、倉敷市の歴史文化の価値の継承と魅力の底上げを図っていくことを基本とする。その上で、関連文化財群の保存・活用を戦略的に進めるために、特に優先的・重点的に保存・活用に取り組み、倉敷市全域における歴史文化を活かしたまちづくりを先導する区域を「歴史文化保存活用区域」に設定して「保存活用計画」を作成し、重点的な取り組みを計画的に推進する。

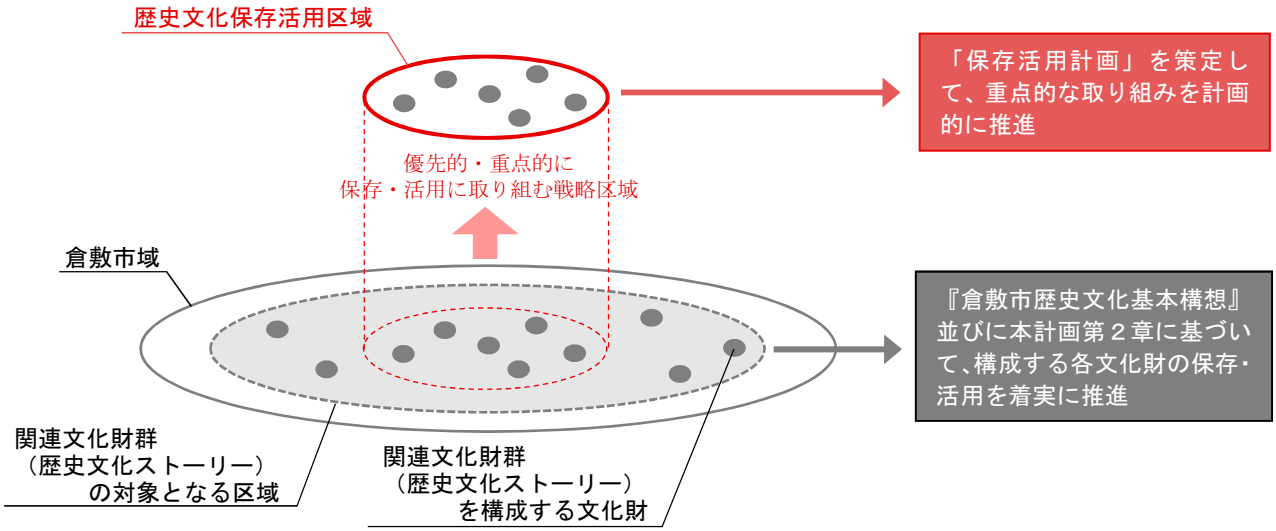



図３－１　関連文化財群の戦略的な保存・活用のイメージ

## ３-２　歴史文化保存活用区域の設定

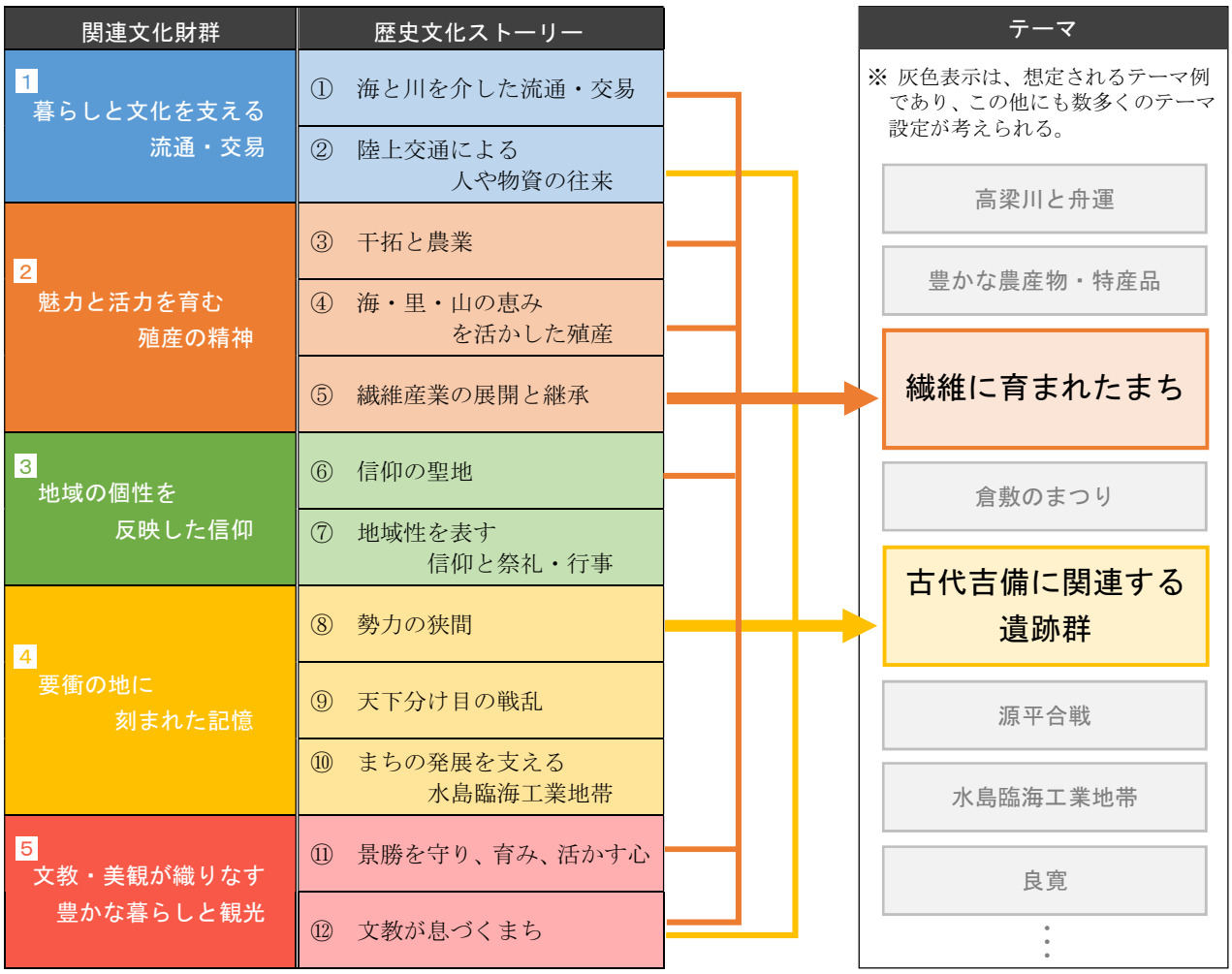
歴史文化保存活用区域の設定にあたっては、最初に『倉敷市歴史文化基本構想』で定めた 12 の歴史文化ストーリーをもとに、重点的に取り組むべきテーマを設定することとした。

例えば、「高梁川と舟運」や「豊かな農産物・特産品」、「繊維に育まれたまち」、「倉敷のまつり」、「古代吉備に関連する遺跡群」、「源平合戦」、「水島臨海工業地帯」、「良寛」などが考えられるが、これらは歴史文化ストーリーをさらに細分化または具体化したテーマであり、この他にも数多くのテーマが想定される。

そのうち、倉敷市の歴史文化の特徴を顕著に表すとともに、施策展開の緊急性の高いテーマである**「繊維に育まれたまち」**と**「古代吉備に関連する遺跡群」**の２つを、今後 10 年間で重点的に取り組む、市内全域を対象としたテーマとして設定することとした（図３－２）。

これらの２つのテーマのそれぞれについて、核となる特に枢要な区域を「歴史文化保存活用区域」に設定することとし、「繊維に育まれたまち」では、倉敷エリア、児島・下津井エリア、玉島エリアの３区域、「古代吉備に関連する遺跡群」では、庄エリア、真備エリアの２区域の合計５区域を歴史文化保存活用区域に設定した（図３－３）。

なお、今後の本計画の改訂にあたっては、社会情勢等に応じて、対象とするテーマ並びに歴史文化保存活用区域の見直し・再検討を行い、さらなる展開を図ることとする。




※ 歴史文化ストーリーの内容は、『倉敷市歴史文化基本構想』71～138 頁を参照

**図３－２　関連文化財群（歴史文化ストーリー）とテーマの関係**

| テーマ | 歴史文化保存活用区域 | 対象となる区域 | 構成する主な文化財等 |
|---|---|---|---|
| 繊維に育まれたまち | | | （水路 ……，町並み ■ ） |
| 古代吉備に関連する遺跡群 | | | （道筋 ……） |

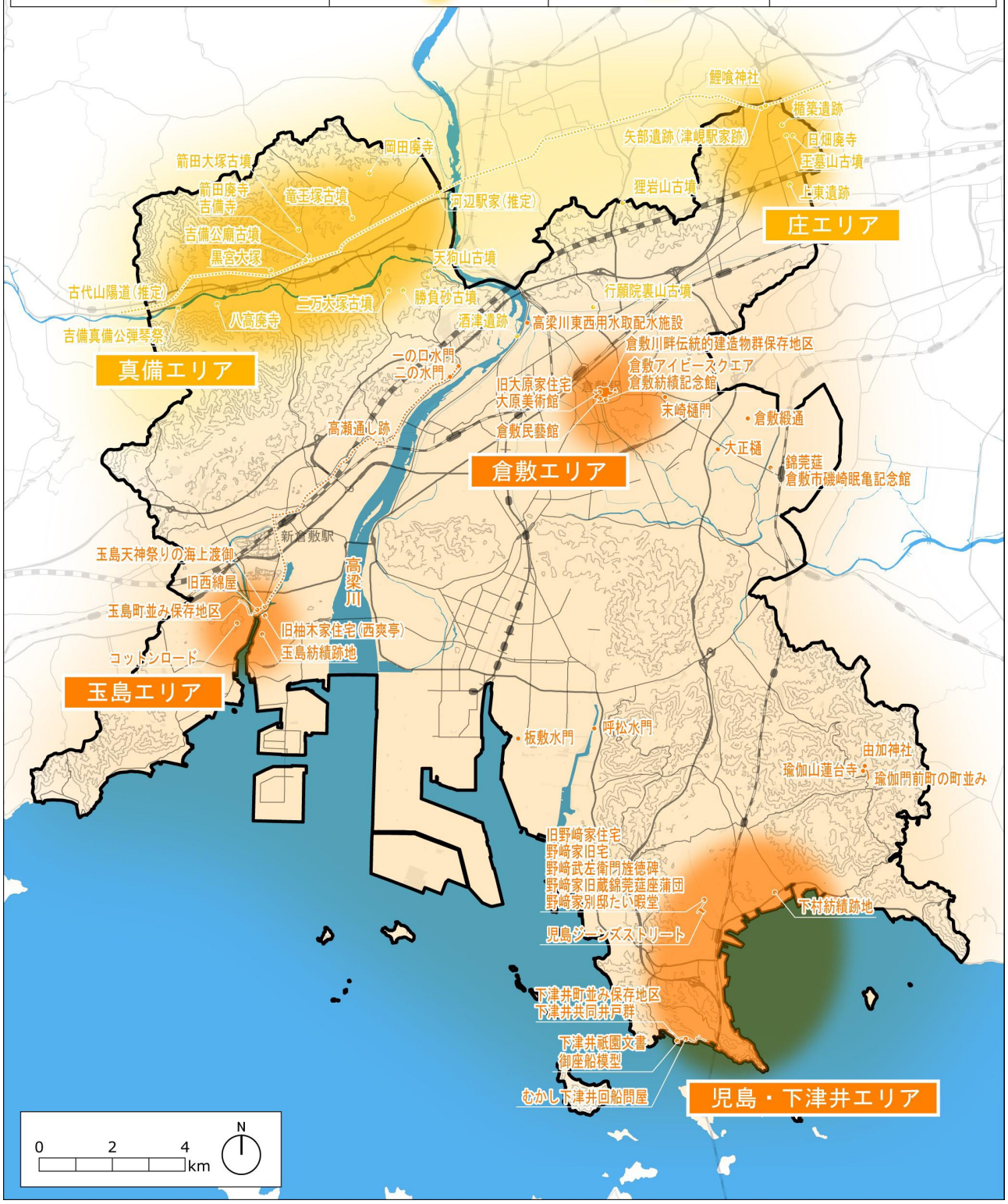



図３－３　倉敷市の歴史文化保存活用区域（計画期間：2018 年 4 月～2028 年 3 月）